

統一協会被害「ほとんど救済まだ」

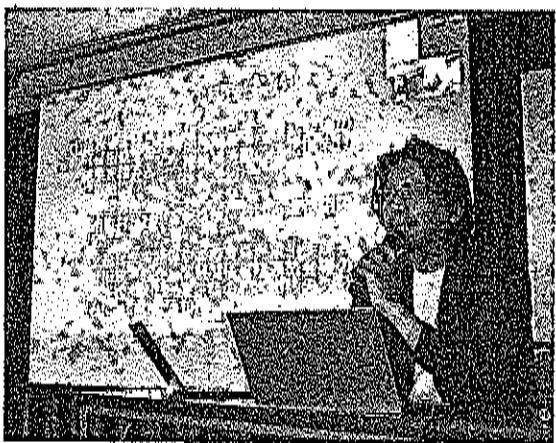
解散命令請求は高く評価

統一協会（世界平和統一家庭連合）による被害救済に取り組んできた全国靈感商法対策弁護士連絡会が30日、都内で「東京集会」を開きました。発表した声明は、国による被害の解散命令請求が近く出されるとの報道に言及し、「遅きに失した」としつつ「高く評価する」としました。一方、「被害者のほとんどとはいまだ救済されていない」とも指摘しました。

都内で集会

代表者話人の山口広弁護士が冒頭で発言。解散命令について裁判所が判断するまでの間に協会が資産を隠匿する可能性があるとして「被害救済の妨げになる。被害資産の保全のための特別措置法を、超党派で実現してほしい」と語りました。

信者2世の問題について久保内浩嗣弁護士が報告。「児童虐待防止法では虐待の主体が『保護者』とされており、教団関係者が外れてしまう。立法上の対応が必要だ」などと語りました。



全国靈感商法対策弁護士連絡会の東京集会で報告する弁護士たち

統一協会は、元首粗銃撃事件などで日本からの献金が減り、協会は資金難にある」と報告。今年9月、統一協会が日本の信者2世6000人を抑えながら食べた。農家に分けた小石や虫の入った米を吐き気を抑えながら食べた。小学校では『栄養失调』と言われたなどと振り返りました。

統一協会に詳しい韓国ジャーナリストも参加し、「新型コロナウイルスの流行や安倍晋三の見方がある」などと述べました。

言いました。「両親は協会関連組織に勤めており、高額献金で家庭は極貧だった。農家に分けた小石や虫の入った米を吐き気を抑えながら食べた。小学校では『栄養失调』と言われたなどと振り返りました。

晋三元首粗銃撃事件などで日本からの献金が減り、協会は資金難にある」と報告。今年9月、統一協会が日本の信者2世6000人を抑えながら食べた。農家に分けた小石や虫の入った米を吐き気を抑えながら食べた。小学校では『栄養失调』と言われたなどと振り返りました。

晋三元首粗銃撃事件などで日本からの献金が減り、協会は資金難にある」と報告。今年9月、統一協会が日本の信者2世6000人を抑えながら食べた。農家に分けた小石や虫の入った米を吐き気を抑えながら食べた。小学校では『栄養失调』と言われたなどと振り返りました。